

令和5年度 学校評価表の目標達成のための重点事業

学校評価委員会

部署	関連項目	令和5年度 目標達成のための重点事業	改善点・提言
教務・庶務・防災	10,11	保護者・地域への的確な情報発信	・効果的な情報発信とペーパーレス化推進のため、学校だよりを配信形式に変えた。 ・職員会議もペーパーレス化を定着させ、クラウド上に共有するなど工夫を続けている
	1,2	組織として円滑な学校運営	・コロナウィルス禍が収束に向かう中で社会や生徒の実態に即した柔軟な校務運営を心掛けている
	1,10	職員間での適切な情報の共有の推進	・想定される災害の発生に向け、防止マニュアルの改訂に着手した
	2,9	防災訓練の実施と工夫、防災教育の充実	
情報ネットワーク	1,5	情報ネットワークの更新管理	・一人一台端末の導入も3年目を迎え、全校生徒に対して、タブレット端末を活用した教育活動を行うことができるようになった。アプリケーションの導入も視野に入れながら、一層効果的な活用を促進できるように取り組みを行いたい。 ・情報機器やケーブル等の貸出管理が散逸しがちであり、適切な管理方法について検討が必要である。
	4,5	校内LAN・普通科PC教室についての環境整備	
	1,2	個人情報について、適切なデータ管理を徹底する(アクセス制限など)	
	1	職員間の情報共有に関して、イントラの充実をすすめる	
授業計画	5,6	学習効果を高める時間割編成の研究	・特編授業、3年テスト返却もバランスを考慮して計画できた。 ・科目選択は早くから取り組んだが、特に新3年は新たな科目が設置され、今後更なる研究が必要である。
	5,6	考査・特編の計画・実施	
	5,6,7	科目選択及び講座編成の工夫	
進路指導	5,6	進路通信・学年進路通信の発行、模試結果の分析	・各学年の進路行事・模試をはじめ、信州大学説明会、大学模擬講義、予備校講師を招いての医学科セミナー、入試研究会、受験対策講座などを、計画通りに実施している。 ・各学年の進路通信により、模試・探究学習・学習指導など多岐にわたる内容を伝えている。進路室通信も適宜発行し、生徒への情報提供や進路意識の向上を図っている。 ・前年度入試結果・最新入試動向などをまとめた資料を、学校評議員会・同窓会・PTA等に提供している。 ・大学入学共通テストや年内入試に向けて、適時情報を発信しながら出願指導・確認作業を行っている。
	5,6,8	進路情報の提供	
	5,8	進路検討会議の実施	
	1,10	懇談会への資料提供	
	7,8	キャリア教育全般	
学習指導	5,6	学習計画の立案と実施 シラバスの作成	・小論文指導では、3年前から予備校の講師に変更し、講演会を実施した。46名の生徒が参加し質問等行い好評であった。また、小論文個人添削では今年度は専門の業者に依頼した。 ・人権平和学習は、中村哲医師のドキュメンタリー映画「荒野に希望の灯をともす」を鑑賞し、振り返りフォームに感想等まとめ提出した。 ・「学習室便り」を発行した。 ・長期休業の補習は計画通り実施することができた。それ以外にも各学年による補習が積極的に行われた。 ・学習室を拡張してから、生徒の利用時間、使用頻度が大きく増している。 ・匿名性を担保した授業評価の調査では、今年度から全面的にGoogleForm入力に切り替え効率化が図られた。 ・総合的な探究の時間は、学年の学習係が中心となり、計画に従い実施することができた。
	5,6	小論文指導	
	5,6,7	補習計画	
	5,6	総合的な探究の時間	
	2,3	人権平和学習(10月)	
	6,7	学習室・自習室の環境整備	
	6,7	生徒による授業評価の実施と分析	
	6	授業公開・研究授業などの立案・計画	
図書視聴覚	4,9	日常および学校行事での放送協力	・各分担ごとに、着実に計画通り進んでいる。探究学習や進路に関する情報など、必要な時に適切な資料を提供できるよう心掛けている。 ・図書資料のうち新書の需要が増加しているため、需要の高い分野について計画的に購入していきたい。
	7,9	図書通信の発行	
	5,9	各学年・係・探究活動と連携した資料提供	
	6,8	小論文・面接などの資料提供	
生活指導	2,4	安心・安全な学校づくり	・通学時における交通安全について全校で集まる機会などを捉えながら注意を促してきた。自転車事故などは年度当初があったが減少してきた。 ・スマホ利用についてはゲーム依存など課題もあるように思う。今後も指導方法など含め引き続き検討していきたい。
	2,4	基本的な生活習慣の確立	
	1,2,9	情報の共有と指導体制の確立	
生徒会指導	1,4	高松92宣言の遵守	・高松祭は、4年振りにコロナ禍前と同様に開催することができた。2日通じて3000人程の来場者を集め盛況であった。感染症熱中症対策やおもてなしの姿勢など今後に生かしていきたい。 ・各委員長を含めた役員会を行い、活動状況を互いに把握するとともに積極的に委員会の活動が展開されるよう工夫した。 ・役員が発足にあたり、いのちの碑の慰霊を全役員で行いあらためて高松92宣言の意義を確認させた。
	2,9	高松祭などの行事の運営	
	2,9	委員会活動の活発化	
	7,9	班活動の活発化	
教育相談	1,4,7	アンケートによるニーズの把握と問題の発見及び予防	・悩みアンケートおよび学校環境適応感尺度「アセス」により、悩みを抱える生徒の面談や相談に活用し、予防に活かすことができた。係会や教科担当者会等を通じて、生徒の情報共有や合理的配慮についての理解を深め、相談力向上事業も活用して生徒・保護者に丁寧に関わり、SC・SSWと連携しつつ遺漏のない支援及び環境整備を図っていきたい。
	1,4,7	生徒・保護者の支援及び環境整備	
保健衛生	1,4	生徒・職員の健康管理	・例年行っている救命救急講習は、急激なコロナ蔓延に伴い直前に中止とせざるを得なかった。今後も感染症の影響もあり課題は多いが、引き続き安全面に配慮しながら、生徒、職員の健康状態を見守ってきたい。
	2,4	学校安全の徹底	
美化	2,4,9	全校生徒の美化・環境意識の向上	・前年に引き続き感染症対策として個人のゴミの持ち帰りに全校で取り組んでいる。今後も持ち帰る意義を理解してもらい、継続につなげたい。新型コロナウイルス感染症が5類に下がったため、できる範囲で美化委員会の当番活動を再開することができた。
PTA	10	学校と保護者の連携	・PTA行事は概ねコロナ前に戻り、多くが対面で実施することができ、一定の成果を得ることができた。 その中で、研修旅行は諸情勢を踏まえ中止とし、来年度以降それに代わる事業を考えていくこととなった。
行政	4	校舎内外の環境整備の推進	・本館1~4階トイレ洋式化等改修工事を実施した。 ・限られた予算の中、学校施設の小規模修繕、樹木の剪定・伐採等、環境整備に努めた。 ・コピー用紙の削減、使用していない教室等の消灯や冷暖房の適切な使用を呼びかけた。 ・窓口対応や電話対応等、親切・丁寧な対応に努めた。
	4	エコマネジメント長野への取組推進	
	10	来校者等への親切・丁寧な対応	
1学年	5,6,7	iPadの活用と家庭学習習慣の確立	・学校活動全般でタブレットの活用については定着してきている。生徒のスマートフォンとタブレットの使い分けに課題がある。 ・コロナ以前の学校生活に戻り、普通の高校生活が送れていることはありがたい限りである。欠席の多い生徒もいるが、想定していたよりは少ない。 ・問題行動も少なく、落ち着いている。「いじめ・暴力」については、発生してからでは遅いので、機会があるごとに指導したい。
	7,8,9	挨拶・清掃など基本的な生活習慣の確立	
	3,8	いじめ・暴力などに対する人権感覚の育成	
2学年	4,5,6	家庭学習習慣の確立	・学年通信などでの呼びかけやグループクラスルームを利用しながら家庭学習の充実指導に取り組んだ。基本的な生活習慣の確立、班活動の両立については、生徒とのこまめな面談を通じ指導を行っている。いじめ・暴力の根絶については、HR活動や授業を通して、その重要性を引き続き理解させたい。家庭連絡を密に行うことで保護者との信頼関係を構築し、協力体制を強めていくことを意識しながら諸々の指導を継続していきたい。
	6,7,8	挨拶・清掃など基本的な生活習慣の確立	
	1,8	いじめ・暴力などに対する人権感覚の育成	
	9,10	保護者との信頼関係の確立	
3学年	5,8	目標目的を重視した志望の進路実現	・本人、保護者と懇談を丁寧に行い共通認識の下で進路選択をできるように心掛けた。生活がコロナ禍前の状態に戻り、例年通りの入試形態に戻した大学も多く、不安要素が多い中、最新情報を入手し着実に進路指導ができるよう留意した。班活動の大会や行事のコロナ禍前のように実施されたが、最上級生の立場になった生徒たちは多くの苦難があり、生徒たちの気持ちに寄り添い目標に向かえるよう配慮して指導した。過去2年間の状況と変わり、欠席に関してはペースをつかめず欠席の多い生徒もいたが、各個人ごとに対応することができた。最終学年として心身ともに、個々にも集団としてもたくましく成長した姿となるよう指導を継続していきたい。
	9	社会性・協働性の育成	
	11	生徒保護者と学校の連携	